

## 【結ぬ海科 6学年の取り組み】

「海と私たちの生活とのつながりを考えよう」《海を守る・海を知る・海を活用する》

【目標】 自分たちの生活と海とのつながりを理解し、未来の街づくりについて提案するための課題を見だし、自分たちがどう関わって生きていくのかについて、実践することができる。

☆三大海洋教育（魚まぎ集会・ビーチクリーン・避難所体験）



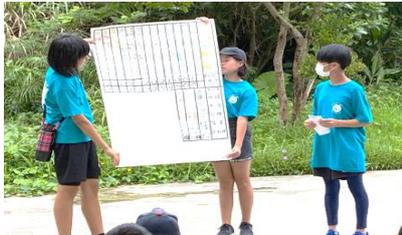
☆6学年の取り組み

1 体験（ビーチクリーン・劣化パネル作り）



このプラスチックがどんどん小さくなって  
マイクロプラスチックになるんだね！

2 課題



- ・風やどんな海流の影響でゴミが流されてきているのか？
- ・海藻の役割や状態は？
- ・西表の他の場所でもゴミの量や種類は同じなのか？
- ・マイクロプラスチックが与える影響は？

3 調査・分析

(1) 徳岡さんによる講話



西表の海岸にあるゴミの種類や量、どこからどういう海流に乗ってやってきているのか学ぶことができました。また、沖縄本島のゴミや、日本各地のゴミの様子についても教えてもらいました。さらに、ゴミの処理の仕方についても知ることで、ゴミを減らすことにも関心を持つことができました。

(2) 中野海岸と北泊の浜のゴミの比較



- ・ゴミの量は中野海岸の方が多かった。(ペットボトルは約3倍)
- ・どちらも中国から流れてくるペットボトルが多かった。
- ・北泊は劣化しているゴミが多かった。(風にさらされて流れてくるため)

(3) 3つの浜のマイクロプラスチックの比較



〈調査方法〉

- ① 30cm幅で砂を集め、ふるいにかける。
- ② 見えるゴミを取る。
- ③ 数をていねいに数える。(5mm以下)

場所	中野海岸	北泊	月ヶ浜
マイクロプラスチックの数	66	178	93



地形によって風向きが変わり、  
ゴミの量が違う！！

4共有・発表

〈ゴミを減らすための取り組み〉



ペットボトルキャップで  
キーホルダー作り

簡単に作れて、しかもゴミを再利用できるってSDGsにもつながっていいな〜と思いました。



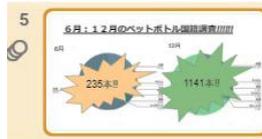
できたらいいな こんなこと！

- ・量り売り (タッパーに入れる)
- ・ゴミ↔口 (交換制度)



2月には竹富町に提言書を渡しました！！

〈海洋教育サミット〉



- 分析
1. ゴミの量が海岸に多かった。
  2. その原因は、プラスチックの容器がほとんど集まっていた。
  3. 海岸に、容器は集まらなかった。
  4. ペットボトルは、5月4日、5日に集まっていた。
  5. 海岸は、2月1日に集まっていた。
  6. 1つは、2月1日に集まっていた。
  7. 海岸は、2月1日に集まっていた。

自分たちが調べてきたことをスライドにまとめて発表しました。また、他校の取り組みと比べたり、参考にしたりすることもできました。そして最後には、これからの海についてみんなで話し合いました。

〈NY 交流〉



自分たちの海洋ゴミと違って、劣化していない大きなゴミが多いことが分かった。プラスチック0給食のようなことを真似してみたい。

〈春松小学校交流〉



同じ海だけど、採れる魚が違って、給食も変わっていて、美味しそうだったと思った。クマ学習や稚魚の放流などを私もしてみたいと思った。

〈羅臼町・竹富町海洋教育交流会〉



西表とは遠い北海道の地域なのに、共通点がいくつかある事を知った。また、羅臼の人達がサンゴやマングローブのことを知らなかったように、僕たちも羅臼こんぶやオジロワシのことを初めて知り、同じ日本でも環境によって違いがあるのだと実感した。これからも他地域との交流を通して深めていきたいと思う。